



ロボコン世界一のアイデアが知的財産に！授与式を開催 中学生開発の「お薬管理ロボット」が実用新案取得

追手門学院大手前中・高等学校（大阪市中央区、校長：濱田賢治）の中学生チームが昨年開発し、世界最大級の国際ロボットコンテスト「WRO (World Robot Olympiad) 2022」で世界一となった、医師が処方した薬を画像で認識・分別し、必要な量と種類を患者に提供する「お薬管理ロボット」が実用新案権を取得しました。

12月18日に、日本弁理士会の担当者が来校し、ロボットを開発した古本美月さんと水谷風花さん（現在、いずれも高校1年生）に実用新案登録証が手渡されます。

「心に寄り添うお薬管理ロボット『Pa1』」は、少子高齢化や核家族化を背景に、医療支援を目的として開発されました。必要な錠剤薬の種類や数を登録し、包装された状態で挿入口に入れると、AI搭載のカメラが識別し、アームが必要分を包装から押し出して薬を提供します。また、患者の音声を認識して、健康状態を家族や医師に知らせる機能を備えているのも特徴です。

このうち、実用新案権として認められたのは「錠剤を取り出す装置」のアイデアです。生徒らは、錠剤を真上から均等に力を加えて押し出すよりも、斜めから押し出した方が、少ない力で取り出すことができることを発見し、アームの動作機構に組み込んだことが評価されました。

今回の権利化は日本弁理士会の助言によるもので、ちょっとしたアイデアが特許、実用新案登録に繋がることで、若者の発明への関心を高めていきたいという狙いがあります。古本さん、水谷さんは「試行錯誤したアイデアが権利として認められて嬉しい。」と話しています。

ロボットサイエンス部は今年11月にパナマで開催された「WRO2023」でも、世界85ヶ国の代表が集う中で8位に入賞しました。今後もロボット開発を通じて、社会課題解決への貢献を目指します。

【ポイント】

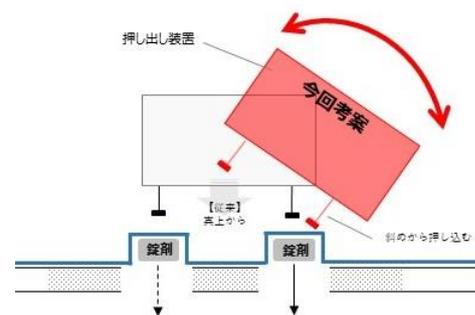
- ロボコン世界一となった中学生開発の「お薬管理ロボット」が実用新案権を取得
- 包装された錠剤を斜めからアームで押し出すアイデアが評価される
- 12月18日に日本弁理士会が来校し、実用新案登録証の授与式を開催

【授与式】

- 日 時：12月18日（月）15時～
- 場 所：追手門学院大手前中・高等学校 テックラボ（大阪市中央区大手前1-3-20）
- 参 加：日本弁理士会2名、ロボットサイエンス部、教職員



WROに出場した古本さん、水谷さんとお薬管理ロボット「Pa1」



押し出し装置イメージ

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL: 072-641-9590 仲西・織田